

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	春草・郷土作家調査研究保管事業	会計	一般会計	事業No.	831	施策順No.	61-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-2		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	美術博物館		
施策	61 地域資源の発見		事業期間	開始	1	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 飯田市美術博物館所蔵の美術作品						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		所蔵作品数(点)	2813	2815	2829	2830			
	意図	1 調査・研究し、活用できる状態。							
対象をどう変えるか	対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		調査研究し、活用を可能にした所蔵作品の総数(点)	1305	1320	1340	1350	1350	1360	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	購入作品も加わり、目標の資料点数は達成した。緊急雇用事業とのリンクにより資料整理が進んだ。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>菱田春草をはじめとする郷土に関わりのある美術作家について、調査研究し作品や資料を収集し情報を集積することによって、埋もれている地域資源を発見し多くの市民が学習のために利用できるようにする。</p> <p>1 菱田春草とその周辺作家、および郷土作家に関する作家たちの作品を収集し、調査・研究、保管する。 2 上記に関わる写真などの二次資料・文献資料等を収集する。 3 収蔵作品を利用・保存を目的として表装替え・修復する。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 文献資料 菱田春草関係の文献を中心に、館蔵品に関わる分野に視点を定めて収集した。 2 作品資料収集 寄贈申し出作品などに対し、収集基準に基づいて時に即した対応を心がけ、春草については、代表作品クラスの取得計画を長期的に進めた。 3 館蔵品の保存管理 表装替、額の新調などの保存管理をおこなった。 4 調査研究 菱田春草をはじめ郷土作家についても機会を捉えて進めた。</p>	<p>1 収集した文献数 2 収集した作品数 3 保存管理した作品数 4 調査した項目</p>	<p>1 10点 2 2点 3 3点 4 5件</p>
23年度実施計画	<p>1 文献資料 菱田春草関係の文献を中心に、館蔵品に関わる分野に視点を定めて収集する。 2 作品資料収集 寄贈申し出作品などに対し、収集基準に基づいて時に即した対応を心がけ、春草については、代表作品クラスの取得計画も長期的に進める。 3 館蔵品の保存管理 表装替、額の新調、油彩作品修復などの保存管理をおこなう。 4 調査研究 菱田春草をはじめ郷土作家にも主体を据えて進める。 5 地域史研究事業 「佐竹蓬平・鈴木芙蓉レンネ」にむけての資料調査・写真撮影をおこなう。</p>	<p>1 収集した文献数 2 収集した作品数 3 保存管理した作品数 4 調査した項目 5 新たに調査した作品数</p>	<p>1 10点 2 1点 3 3点 4 5件 5 10点</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		4,199	3,963	4,199		
計(A)		4,199	3,963	4,199		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			3,963			

4 事業に対する市民や議会の意見

菊慈童募金の活動にみられるように、飯田においては美術文化の重要性が広く認識されている。文化都市としての市民の誇りも高く、これを示す質問や意見が当館に寄せられており、特に菱田春草作品の展示を求める要望が多い。また議会からも春草作品の充実を求める声があげられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	価値が潜在化され高まる地域資産が認知される	施策の成果指標又はムトス指標	活用できる状態の整った地域資産の数(累計 件)
この事務事業は施策の目的達成にどのような工夫をいたしましたか	4年間の振り返り	郷土に関わる優れた作品や資料を研究し、その成果を展示や講座、図録、研究紀要などで発表してきた。特に佐竹蓬平・鈴木芙蓉の認知度は全国的にも高まってきている。		
	後期に向けた課題	菱田春草の調査研究に重点を置き、春草研究の資料を集約する館として認知度を高めていく努力をする。市民への春草の認知度が進むように工夫する。		地域資産を知った市民の割合(%)
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をいたしましたか	4年間の振り返り	郷土作家については、作品調査を進め所蔵家との協力関係を築く工夫をしてきた。また、藤本四八に関しては、文献・資料の情報に特に目配りをして貴重図書の収集を進めた。		
	後期に向けた課題	特に菱田春草に関する資料のより一層の充実を図るために調査研究を進めていく。		
コストを削減するためにどのような工夫をいたしましたか	4年間の振り返り	購入による作品確保は一度には進まないため、寄贈・寄託という方法で館として展示に利用できる作品を増加させてきた。		
	後期に向けた課題	寄贈・寄託が進むように、所蔵家との連絡を取り、また作品の動向に目を配っていく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市民・団体・自治体が受益者となる。当事業に関して直接負担を求める要素はない。		
	後期に向けた課題	これまで同様、市民・団体・自治体が受益者となる。当事業に関して直接負担を求める要素はない。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	佐竹蓬平・鈴木芙蓉に関しては、伊賀良地区の顕彰会と連携を取り、調査や作品の借用の援助を得ることができた。また、春草会や下伊那教育会との連携を取り、春草作品の寄託の継続をしていただいている。		
	後期に向けた課題	所蔵家や顕彰団体、研究団体との連携を密にし、作品の情報を得られるように努める。		
全体を通じて	4年間の振り返り	郷土作家関連の作品については、新たな情報提供もあり、近世美術・藤本四八関連については資料の収集が進んだ。また、寄贈された藤本四八写真フィルムの整理登録も年毎に進めてきた。菱田春草については、この4年間については寄託作品が増加している。ただし、購入に至る作品はなかった。		
	後期に向けた課題	寄贈の申し出はあるものの、収蔵スペースが満杯のため、受け入れられない作品が生じる心配がある。新たな収蔵スペースの創出が大きな課題となる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------